

信州型コミュニティスクールかわら版（※「生涯学習プログラムガイド集」から名称変更しました）

みんなで作るコミュニティスクール

発行：長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

No. 24 (R 4 (2022). 11)

信州型コミュニティスクールかわら版（旧生涯学習プログラムガイド集）ホームページ URL：
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html>

地域住民の生きがい、地域の活性化に つながる地域と学校の協働活動



新学習指導要領では、これからの時代に求められる教育を実現するために、より良い学校教育を通してより良い社会を創るという理念を学校と社会が共有し、学校と社会が連携・協働して子どもたちを育てていく「社会に開かれた教育課程」の実現が重要とされています。

コロナ禍でも、子どもたちの豊かな成長を願い、多くの学校で学校と地域の協働活動が継続されています。地域で活躍し、学び続ける大人の姿は、子どもたちに将来、自分たちも社会と関わり続ける大人になりたいという、あこがれを芽生えさせます。

地域では、ボランティアとして子どもたちと関わることで、「元気をもらった」「生きがいを感じる」という声を多く聞きます。キャリア教育に関わった地域の方が、子どもたちに「働く意味」を伝えることで、改めて自分の仕事に誇りがもてたという感想も寄せられています。

今回の生涯学習プログラムガイド集では、協働活動がボランティアの生きがいづくりや生涯にわたって学び続ける活力となっている事例を紹介します。

山形っ子タイムに寄せる地域の思い（山形村立山形小学校）

○山形っ子タイムって？

山形村立山形小学校では、毎週水曜日の放課後、地域のボランティアの方に見守ってもらいながら子どもたちが体育館、校庭、図書館などで自由に遊んだり学習をしたりしています。

今回は、学校支援コーディネーターと山形っ子タイムに来てくださっているボランティアのみなさんにお話を伺いました。

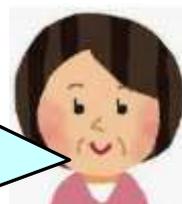


○子どもたちと接していて感じていることを教えてください



子どもたちは親と先生以外の大人と接することで、いろいろな考え方の大人がいることを知ることができます。ボランティアは「今の子どもたちってこうなんだ。」と知ることができ、自分の子育てを思い出す人も多いです。子どもたちも(ボランティアを)頼りにしているし、ボランティアは頼りにしてもらうことをうれしいと感じています。

今の4年生が1年生のときからこのボランティアをやっているので、「あんなちっちゃかった子がみんなとサッカーしてる」というのを見ると成長を感じます。子どもと一緒にいると元気をもらえます。それは確実に言えますね。



仲間うまく入れない子が私たちに関わろうとしたり、話しかけたりしてきます。学校と家庭の間のワンクッションとして、親や先生以外で自分のためにかかわってくれる人がいると感じられる大事な時間になっていると思います。

はじめの頃は、3年生が遊んでいると1年生が入れないような様子がありました。少し声をかけて、今はどの学年の子も同じ場所で遊んでいます。そういう場は大事だと思っています。今の子たちは異年齢で混じって遊ぶことが苦手。同じ場所で遊んでいても、異学年の子ども同士と一緒に遊ぶ姿はあまり見られません。でも、大人があまり御膳立てし過ぎるのもよくないかなとも思っています。



今日みたいに若い人が来てくれていると子どもたちの顔がちがうんですよ。若い人がいるといいですね。(この日はインターシップの大学生が来ていました。)

近所の子たちが「山形っ子のおばちゃんだ」と声をかけてくれることがあります。近くに少しでも知っている大人がいると、何か(災害など)のときにも安心ですよ。



参加しているボランティアのみなさんが、この時間をとても楽しみにしていることが分かりました。また、子どもたちに対して必要なときに必要な会話をしたり、遊んだり、静かに見守ったりとごく自然に接していることが子どもたちにとっても居心地のよい場所になっているのだと感じました。

○現在の課題やこれからの展望について教えてください

【高齢化と固定化】ボランティアを始めた頃60代だった方もすでに70代になっています。読み聞かせやクラブの支援は少し世代交代していますが、夕方の時間は会社勤めの人も農家の人も働いていて、新しいボランティアを確保しにくい状況です。



【学校の敷居の高さ】「学校」というと引いてしまう人や、遠慮する人もいます。山形っ子タイムのような活動を通して、自然に学校に入り、先生たちと少しずつ顔見知りになることで、徐々に学校の敷居は低くなるのではないかと思います。お互いに「少しでも顔を合わせたことがある」という感覚が大事だと思います。



【情報の共有・発信】様々なボランティア団体が子どもたちのために活動していますが、お互いに何をやっているかを知らないことが多いです。まずは各団体や学校の活動内容や思いを共有していくことから始めています。また、地域に向けての子どもたちの発表の場がほしいと思っています。活動の内容や思いを発表することで、地域の人はそのを知ることができ、子どもたちは「やった」という達成感と認めてもらう有用感を得ることができるのではないかと考えています。

「情報の発信と共有」をとにかく大事にしたい、ということがコーディネーターの方のお話から強く伝わってきました。地域の様々な立場や世代の方に活動内容を知ってもらい、その思いを共有することが、ボランティアの世代交代、学校への入りやすさなどの課題を解決するきっかけになるのではないかと感じました。

(中信教育事務所生涯学習課 指導主事 大工原 雅将)

学校や子どもとのかかわりが「私の生きがい」に

今回インタビューをしたAさんは、北信地区の出身です。家族の仕事の関係で国内外の転勤があり、それが一段落して北信地区に戻ってきたそうです。そしてシニア大学での学びをきっかけに学校とのつながりがうまれました。

シニア大学で学ぼう ～友達作りをしたい～

仕事が一段落してのんびりしようと思っていたころ、ケーブルテレビで地区の講座を知りました。試しに参加をしてみました。食事や歩き方などいろいろ勉強をすることができました。内容も楽しかったのですが、友達に会えることも楽しみでした。講座が終わるときに「さみしいな」と感じました。その時に友達が「シニア大学」を紹介してくれたのです。友達から誘われたこともあって、行ってみることにしました。一番の目的は友達作りでした。年齢が上がると、新しい友達は自分が求めないとできないのです。



シニア大学での学びから ～仕事としてではなく、一緒に～

シニア大学1年生の時には仲間づくりが中心で自分たちが楽しむカリキュラムになっていました。それが2年生になったら「自分と友達と地域の人との活動」になりました。何をしてよいか悩みましたが「子どもに関わることをしたい」ということは漠然と考えていました。そんな中で学校支援の募集を知り、行ってみることにしました。また、待っていても何も起こらないだろうと思ったのでパンフレットを作成し、近隣市町村の学校を訪問し校長先生に宣伝をしました。そこで、教育委員会のコミュニティスクール担当者ともつながることができたのです。それに対し反応がありました。最初は「夏休み後の校庭の草取りの手伝い」でした。草刈り機を使った仕事としてやるのではなく、児童と一緒に手で草をとりました。活動の後、子どもたちがベランダに出て手を振っている姿を見たのです。それが本当にうれしかったです。子どもたちと一緒に草とりという時間を過ごせたからこそその経験だと思いました。その時、「また来たい」「また一緒にやりたい」と思いを強くしました。

運営協議会への参加～学校のお手伝いだけでなく、やりたいことを～

地区で子どもとたくさん接している方がいます。その方が運営協議会に参加しており、委員をやめるとなったときに「引き継いで」と言われたので、引き受けました。正直何をするのもわからないままに入りました。

最初は意味のわからない言葉が飛び交ってさっぱりわかりませんでした。コミュニティ・スクールとは何か、運営協議会が何をするとところかわかりませんでした。そんな時、教育長さんが隣に座って、わかるように解説をしてくれて

とてもありがたかったです。そのようなことを繰り返すうちに何をしたらよいのかわかってきました。この頃は身近な問題をいろいろな立場の方と話し合うようになりました。初めて参加する方にも説明ができるようになってきました。私は運営協議会を、「どうすれば子どもが気持ちよく生活ができるかを考えてお手伝いするところ」と答えます。さらに、お手伝いだけでなく、一緒にやりたいことも考えています。



インタビューの際も手元には工作の飛行機があり、つくり方の研究を楽しんでいることが伝わってきました。

思い出の協働活動 ～コロナ禍での音楽会へのかかわり～



私たちはシニア大学の同級生と団体を組織して、そのメンバーが関わる学校に学区・居住地を越えて参加させてもらっています。その中の学校の音楽会のことです。練習の時に不安がある子の横に座って、とにかくその子と一緒にいました。本当にこれで大丈夫なのかなと心配になったのですが、子どもたちも先生も頑張っている様子を見ました。そして、うれしいことにコロナ禍の中でも音楽会で楽器の消毒などの仕事をいただき、演奏を聞かせてもらいました。すごくうれしかったです。授業参観や懇談会の時に小さい子を見ている託児ボランティアなどもさせてもらってとってもうれしいです。子どもたちからの手紙や言葉をいただくのですが、心にしみます。私は学校や子どもたちとつながったことによって、私にとっての生きがいが生まれたと感じています。

学校の敷居の高さ ～担任の先生とも話したい～

このように学校とかかわるようになった今も、学校の敷居は高いです。コロナ禍でさらに高くなりました。私から「活動を再開してもいいですか」と聞こうかと思うのですがどうしても聞きにくいです。きっと実際に学校に行けばいいと思うのですが、「本当に行っていいのかな」と感じる場合があります。管理職の方が「いつでも来てください」と言っても、担任の先生はどうかなと気になってしまうこともあります。だから担任の先生ともっと話せる場をつくれるとうれしく思います。



Aさんは学校支援をきっかけにとして、子どもたちとかかわり協働することが「生きがい」、「やりたいこと」となっていました。そして運営協議会の委員にも任命され学校運営に参画するようになりました。それでも感じる学校の「敷居の高さ」。地域と共にある学校づくりを推進していくために、「学校の敷居」や「大人が（も）やりたいこと」などについてさらに考えていきます。

（北信教育事務所生涯学習課 指導主事 菅原 勇介）



長野県生涯学習推進センターより講座のご案内



○地域と学校の連携推進研修「令和時代の“学校を核とした地域づくり”」

【12月12日(月) 13:15～15:50 会場(当センター)・オンライン(Zoom)】

魅力ある教育による地域創生に従事する岩本氏と望ましい教育制度のあり方をデザインする荒井氏との対談等から、これからの学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進める上でのポイントについて考えます。

これからの学校について考えてみませんか。

講師 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事

岩本 悠 氏



信州大学 教職支援センター 准教授 荒井 英治郎 氏

講座内容の詳細や申込方法については、県生涯学習推進センターのホームページをご覧ください。

HP はコチラ⇒



☆多くの方のご参加をお待ちしています。

■■お問い合わせ先■■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課

Tel: 026-235-7437 E-mail: bunsho@pref.nagano.lg.jp

東信教育事務所生涯学習課 TEL0267-31-0252 南信教育事務所生涯学習課 TEL0265-76-6861

南信教育事務所飯田事務所 TEL0265-53-0460 中信教育事務所生涯学習課 TEL0263-40-1977

北信教育事務所生涯学習課 TEL026-234-9552 長野県生涯学習推進センター TEL0263-53-8822